

6) 筋強直性ジストロフィー症における TRH 試験 について

弘前大学医学部第3内科

成田祥耕 松永宗雄 豊田隆謙

筋強直性ジストロフィー症 (Myotonic dystrophy) には種々の神経内分泌学的な異常が合併することが知られている。われわれも前年度の本研究班の分担研究で、アルギニン負荷に対するインスリン、成長ホルモンの反応を検討し、本症では成長ホルモンの低反応が示唆されることを報告した。本年度は本症における神経内分泌学的研究の一環として、本症患者の TRH (Thyrotropin releasing hormone) 負荷に対する TSH 反応を検討した。

<対象・方法>

臨床的に甲状腺機能の異常のない筋強直性ジストロフィー症 7例 (男6例、女1例、20~52才) を対象とした。正常対照として健康成人男子 9名について測定した。またアレピアチンが投与されていて、甲状腺機能低下の認められた 2例の筋強直性ジストロフィー症についても検討した。

TRH 刺激には 500 μ g を静注し、静注前、15分、30分、45分、60分、90分、120分にそれぞれ採血し、TSH の測定は HTSH キット「第一」により 2抗体 radioimmunoassay 法によった。

<結果>

正常対照 9例の平均血中 TSH 値は、TRH 静注前が $4.7 \pm 0.6 \mu\text{u/ml}$ 、15分では 14.2 ± 2.0 、30分で最高値を示し 16.3 ± 1.6 、45分が 14.9 ± 1.4 、60分は 12.8 ± 1.7 、90分は 10.1 ± 0.9 、120分は $7.7 \pm 0.6 \mu\text{u/ml}$ であった。これに対し甲状腺機能低下のない筋強直性ジストロフィー症 7例では、前値 3.9 ± 0.6 、以下それぞれ 9.0 ± 1.4 、 10.6 ± 1.6 、 10.4 ± 1.5 、 9.6 ± 1.4 、 8.4 ± 1.3 、 $6.6 \pm 0.8 \mu\text{u/ml}$ と正常に比し低反応を示した。特に30分および45分では有意に低かった。(危険率5%以下) 個々について検討すると 7例中 3例は低反応、1例は反応遅延、3例はほぼ正常の反応を示した。トリオソルブ及び基礎代謝率が低く臨床的に甲状腺機能低下のみられた 2例では TRH 刺激に対し高反応を示した。この 2例はいずれもアレピアチンの投与を受けていた。

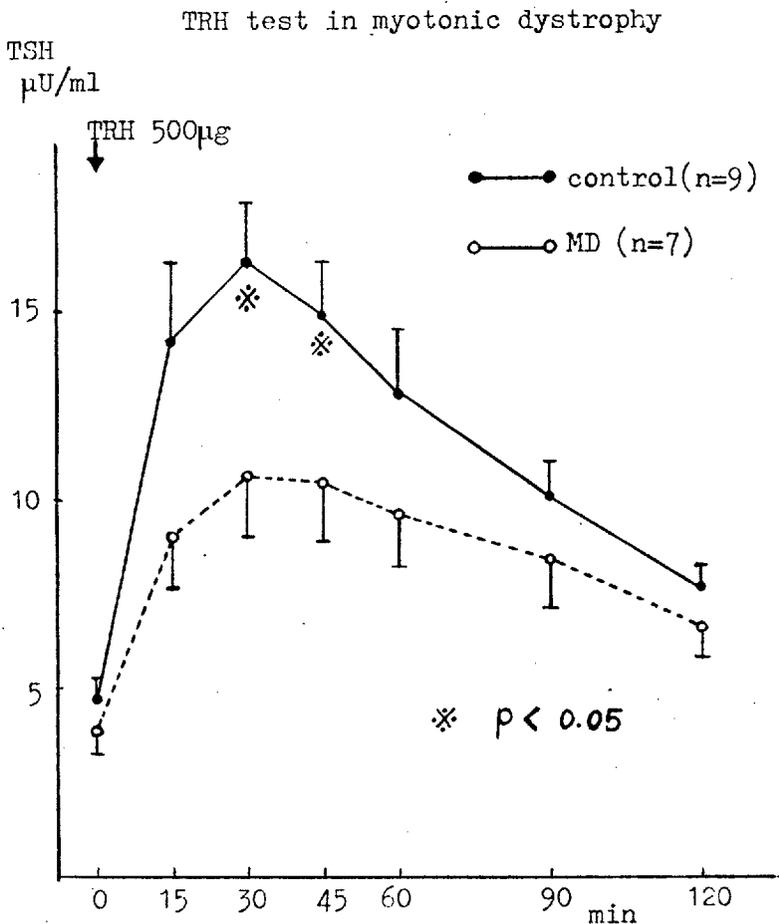
<まとめ>

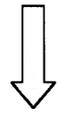
臨床的に甲状腺機能低下症のない筋強直性ジストロフィー症では正常に比し、外因性 TRH 刺激に対する TSH 分泌は低反応であった。甲状腺機能低下症を伴った 2例では TRH 刺激に対して高反応を示した。

表1 TRH test in Myotonic Dystrophy

	Time 0	15	30	45	60	90	120 min.	
Myotonic dystrophy	case 1	3.9	12.5	17.3	15.0	11.8	10.5	9.0
	2	2.5	5.1	6.2	6.0	4.4	3.2	3.6
	3	2.7	6.0	6.2	5.1	5.1		4.4
	4	2.4	5.0	7.2	9.4	9.8	6.4	6.2
	5	6.8	12.0	12.5	11.5	9.8	9.2	7.0
	6	3.6	8.3	12.0	11.0	13.1	9.0	7.9
	7	5.4	14.0	13.0	15.0	13.2	11.9	8.4
	n=7	3.9	9.0	10.6	10.4	9.6	8.4	6.6
	SE	0.6	1.4	1.6	1.5	1.4	1.3	0.8
Normal control	n=9	4.7	14.2	16.3	14.9	12.8	10.1	7.7
	SE	0.6	2.0	1.6	1.4	1.7	0.9	0.6

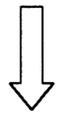
図1 Myotonic dystrophy における TRH 試験





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



筋強直性ジストロフィー症(Myotonic dystrophy)には種々の神経内分泌的な異常が合併することが知られている。われわれも前年度の本研究班の分担研究で、アルギニン負荷に対するインスリン、成長ホルモンの反応を検討し、本症では成長ホルモンの低反応が示唆されることを報告した。本年度は本症における神経内分泌学的研究の一環として、本症患者の TRH(Thyrotropin releasing hormone)負荷に対する TSH 反応を検討した。